

目次

第4版のはじめに
はじめに
数学付録

第1章

社会調査とは何か

❖ 調査法，はじめの一步 ❖

基礎

- 1 社会について「正しく」知ること…………… 001
社会データの重要性／社会データのリテラシー
- 2 社会調査の定義…………… 003
- 3 私たちの社会調査との関わり…………… 005
- 4 調査目的による社会調査の分類…………… 007

発展

- 1 公的統計と統計調査…………… 009
- 2 国勢調査…………… 010
- 3 いろいろな調査のデザイン…………… 012
- 4 社会調査の実像…………… 013
横断的調査／比較調査／繰り返し調査／パネル調査
- 5 社会調査士制度と調査倫理…………… 016
〔資料〕一般社団法人社会調査協会倫理規程

第2章

社会調査の種類

❖ 質的調査と量的調査とは？ ❖

基礎

- 1 社会調査を分類するさまざまな軸…………… 021

調査の方法と分析の方法／統計的調査と非統計的調査・標本調査と事例調査

- 2 量的調査と質的調査…………… 023
量的調査／質的調査
- 3 質的調査の特徴…………… 025
語られたものや語ることの重視／調査者と調査対象者の関係の重視／
調査の継続性・反復性とラポール／信頼性と妥当性についての考え方
- 4 Mixed Method…………… 031

発 展

- 1 全体とケース選択…………… 032
- 2 さまざまな水準での「量的／質的」区別…………… 033
- 3 客観性・信頼性…………… 033
- 4 エスノグラフィーの質の基準としての厚い記述…………… 034
- 5 「質的／量的」という区別への批判…………… 034

第3章

社会調査のプロセス

❖ アイディアから後かたづけまで ❖

基 礎

- 1 調査の全体像を把握する…………… 036
- 2 それぞれのステップを理解する…………… 039
構想・計画／準備／実査／データの入力と点検／分析／報告／
データの管理

発 展

- 1 既存研究の探し方…………… 044
- 2 報告書の作成…………… 046

第4章

社会調査のデザイン

❖ 因果分析を念頭に調査を設計するには？ ❖

基 礎

- 1 何を知りたいのか…………… 047
リサーチ・クエスチョンを育てる／記述的な問いと説明的な問い／変

数と分布

- 2 どのように検証するか…………… 050
因果関係とは／疑似相関と変数の統制／理論仮説・作業仮説とその検証／測定信頼性・妥当性

発 展

- 1 仮説を正確に検証するにはどうしたらよいか…………… 056
反実仮想モデル／無作為割付実験と重回帰分析／選択バイアスと母集団の設定／調査類型の選択
- 2 より良い調査研究とは…………… 059

第 5 章
実査の方法

❖ どのようなデータ収集法を選べば良いのか？ ❖

基 礎

- 1 データ収集法選択の基準…………… 061
調査票調査におけるデータ収集法の重要性／データ収集法を選ぶ基準
- 2 さまざまな調査モード…………… 065
調査員の関与の程度／他記式調査／自記式調査
- 3 適切なデータ収集法の選択…………… 075

発 展

- 1 インターネット法を用いた調査の実際とその問題点…………… 076
- 2 オンラインパネル調査の可能性…………… 078
- 3 インターネット法を活用するための Mixed Mode …… 079

第 6 章
調査票の作成

❖ 質問の作成からレイアウトまで ❖

基 礎

- 1 調査票の作成について学ぶ理由…………… 082
- 2 調査票はどのような構成をとるか…………… 083
- 3 質問の作成にいたる手順…………… 084
- 4 どのような質問形式を選ぶか…………… 085
- 5 質問を作成するときの留意点…………… 087

曖昧な表現を使わない／ダブルパーレル質問をしない／難しい用語を使わない／誘導的な表現を使わない／黙従傾向に注意する

- 6 質問の配置にかんする留意点…………… 090
回答者の心理的負担を小さくする／キャリーオーバー効果に注意する
／回答選択肢の順序に注意する

発 展

- 1 ワーディングが回答に影響を及ぼす実例…………… 093
2 調査票のレイアウト…………… 093

第7章

サンプリング

❖ 対象者はどのように選ばれば良いのか？ ❖

基 礎

- 1 なぜ対象者の選び方が重要なのか…………… 097
標本調査の必要性と役割／ランダムではない種々の抽出法
2 無作為抽出法…………… 099
すべての人を同じ確率で……／無作為抽出標本だけにできること
3 標本抽出枠とカバレッジ誤差…………… 102
4 実行可能性や利便性への配慮…………… 104
多段抽出／訪問費用の抑制と誤差の増大／地点の選び方と最終的な個人
の抽出確率／系統抽出
5 層化抽出…………… 107
6 無作為標本からの乖離…………… 108

発 展

- 1 名簿を使わないサンプリング…………… 111
2 系統抽出の実際…………… 111
3 事前の重みづけと調査後の調整…………… 112

第8章

調査の実施

❖ 郵送法・個別面接法・インターネット調査 ❖

基 礎

- 1 郵送法実査を運営する…………… 115

- 2 郵送法の手順…………… 116
 事前予告／電話での対応／調査票と依頼状の送付／回収／督促（催促）／フィードバックとお礼

発 展

- 1 個別面接法実査を運営する…………… 122
 事前の準備／調査員のトレーニング／訪問と面接／調査員の管理
- 2 インターネット調査の技法…………… 126
- 3 実査の「良い結果」とは…………… 128
 回収率について／実査の方法研究の必要性
- 4 調査プロセスを総合的に管理する…………… 129
 〔資料〕事前予告状

第9章

データの電子ファイル化

❖ 大切な正確性と一貫性 ❖

基 礎

- 1 データの構造化の流れ…………… 133
- 2 実査の前のコード化…………… 134
 コード体系（コード構造）の構築／有効でない回答／多項選択方式のコード構造
- 3 実査におけるコードの適用…………… 138
- 4 実査終了後の作業…………… 139
 調査票のエディティング／データの入力／データファイルのエディティング（データクリーニング）
- 5 アフターコーディング…………… 144
 後からコードの適用を行う／後からコードを構築する

発 展

- 1 コーディングの容易なものとの難しいもの…………… 146
- 2 二重データ入力による入力ミスの検出…………… 147
- 3 データの重みづけと補定…………… 148

第10章

データの基礎的集計

❖ たくさんの情報を要約する ❖

基礎

- 1 変数の種類…………… 149
尺度の水準による変数の分類
- 2 質的変数の要約…………… 152
- 3 量的変数の要約…………… 152
代表値／散布度／ばらつきを考慮して比較する／中央値に対応するばらつきの指標とグラフ

発展

- 1 歪度と尖度…………… 161
- 2 質的変数の散布度…………… 162

第11章

統計的推測

❖ 見えない「全体」に対する想像力 ❖

基礎

- 1 理論的に推測するために…………… 164
- 2 標本抽出分布…………… 165
- 3 標準誤差…………… 167
標準誤差と信頼区間／未知の母分散の推定
- 4 母平均の区間推定とは…………… 169
不偏分散とt分布／信頼区間の式と標準正規分布／t分布を用いた信頼区間の式／信頼水準と信頼区間の幅
- 5 統計のテストをします…………… 173
帰無仮説と背理法／検定の具体例と一般形／目に見える誤りと目に見えない誤り

発展

- 1 推定の精度と母集団の大きさ…………… 179
- 2 特定の信頼区間の当否…………… 179
- 3 分散にも標本抽出分布がある…………… 179
- 4 両側検定と片側検定…………… 180

5 検定と区間推定の関係	180
--------------	-----

第12章 変数間の関連

❖ データを分析する ❖

基礎

1 変数間の関連を探るとはどのようなことか	182
2 変数の種類と分析方法	183
3 散布図の作成と相関係数	184
散布図の作成／相関係数	
4 クロス表の作成と関連の指標	187
クロス表の作成／関連の指標と独立性検定	

発展

1 相関係数の検定	195
2 生態学的誤謬	195
3 重回帰分析	196

第13章 調査倫理とデータの管理

❖ 調査のフィナーレまでしっかりと ❖

基礎

1 調査倫理	198
なぜ調査倫理を考えるのか／FFP（特定不正行為）／QRP（好ましくない研究行為）／インフォームド・コンセント／個人情報保護／不正行為防止に対する取り組み	
2 データの管理	204
回収原票の保管／回収原票の廃棄／研究の再現可能性／二次分析	

発展

1 データリンケージ	207
2 出版バイアス	207
3 IRB	208
4 データアーカイブ	209
5 公的統計の公開	209

第14章

社会調査の意義と今日的課題

❖ 私たちはいま何を考えるべきか？ ❖

基礎

- 1 社会調査の困難…………… 211
抽出台帳閲覧制限問題／回収率低下問題／調査不能の理由／一時不在と調査拒否の背景
- 2 社会調査への協力…………… 215
調査の社会的利益／社会のなかでの社会調査／社会調査への協力
- 3 データと分析の質の問題…………… 218
問いの高度化による困難／無作為抽出ができないときの対応
- 4 社会調査を学ぶ意義…………… 220

発展

- 1 調査者—被調査者の関係…………… 221
ある調査拒否の例／似田貝—中野論争／中野に対する安田のコメント
- 2 社会調査小史…………… 224
海外の先駆的調査／日本の先駆的調査

文献リスト

事項索引